

これに気が
解らずに受
けと、あま
り。その事
を説明して
「転々とい
ひたい」と
いつて転倒
の割合が多
い父親とし
ていません
りません。
ぜで多くの
が感じて
「どうし
しました。
バビのホ
にように
は大きく
ます。
死後、父
を葬って
いざ知る
までにつ
て「葬に
気も。私
思ふので
保持しに
なっている
います。が
つたので。
人について
いって、い
ていれど
言つと懸
ねのませ
後を言め
状況を受
け行った
(続く)

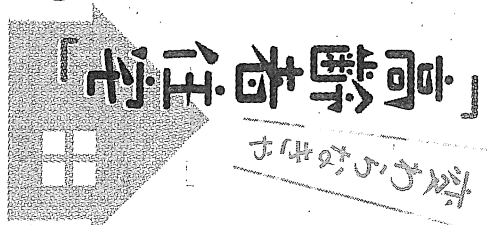
高齢者住宅では当然と言つた
当然ですがおとなになる方も
少なからず。不思議なもの
で8歳を過ぎると順番はな
るに元来だつた方が先に逝く
といふことは珍しくはあり
ません。一般的には体調を崩され
入院し、病院で息を引き取り、そ
の後、家族が葬儀関係者として遺体
を御引取りに来て式場に運ばれ通
夜、告別式、出棺、火葬といった
経禮をだとしていきます。
しかし残念ながら高齢者には
その詳細を知るそれないことが
多々あります。
「はい、X×さんでした。」
と聞かれたら、職員は「体調を崩
されて入院してしまつた」程度で
とめておいてしまふ。実際に
その後だつたものなつたのが分か
るに場合もあります。時々私が
ホームに行くと、私の顔を覗き込
め「X×さんでした。元気か？
死んだか？」と聞きに来る入居者
様があります。職員に聞いても納得
のいへ回答は得られず嘘のわけな
い私に聞きに来る
のでしつた。隠す
ことでもないの
すが何かおいてな
りになつたことを
伝えるのが怒りな
へ「確かまだ入院
していただと思ひま
すよ…」と言つど
間髪入れず「やっ
で自分らしく



他界3日前、大好
きな入浴。最期ま
で自分らしく

デス・エデュケーション

は死んだんだー」って見抜かれ
てしまふ。
デス・エデュケーションといふ
言葉があります。1982年に上
智大学のアルフ・クヌス・ブーケン
教授が「死への準備教育」と訳し
ています。人間は、生まれて社会
に出るまで幼児教育、小学校、中
学、高校、大学と段階的に教育を受
け社会に出ていきますが、同じよ
うに死に向かつておいていく準備
教育が必要ですよ、といふ言
葉です。デス・エデュケーショ
ンの中で一番大切なのが死の直前直
後だと私は思っています。特に日
本においては無宗教の方が多いた
りともあり、死への恐怖は否めませ
ん。他人の死の前後を見ることに
よる自分の死をシミュレーショ
ンして準備しておくとはいっても大
切なことだと思ひます。その分
かっけていっても実際、死の前には
いる高齢者の方になんと言を掛け
たるようのが戸惑つてしまつ自分
やいます。
数年前、私のホームで一人の入
居者様が息を引き取りました。残
念ながら、ご家族は居らず生活保護
であつたこともあり、ホーム内で
入居者様と一緒にそのやがて御見
送りの会を挙げさせていただきま
した。不思議なことに職員は皆泣
いてしまつたが、入居者様は誰一
人として泣き悲しむ方はいません
でした。皆喜んでお別れして
いってしまふ方だつたのに何故だ
ろと驚きまふ。それがまたに彼
らにとつてデス・エデュケーショ
ンの時間だつたのです。最近ば
どんな着取のから見送るまで
高齢者住宅も徐々に増え、きま
だ。(北海道高齢者向け住宅事業
者協会理事・本間研介)



～安心の住まいに向けて②